グローバル通信

2014/06/07
NO. 3
海城中学高等学校グローバル教育部

特集「川崎先生、モンゴル訪問記」

モンゴル訪問記（2014・5・19～23）　その１

海城中学校高校数学科主任　　川崎真澄

§１．ことのきっかけ

昨秋の日経新聞夕刊に，日本語を必修授業に取り入れ，かつまた日本の教材を用いて数学の授業を行っているというウランバートル市の「新モンゴル高校」（2000 年開学。ナランバヤル校長）に関する記事があり興味を持ちました。

その後，同校卒業生が東大，ハーバード，MIT，コーネルなどに多数進学しており，帰国後はモンゴル政府や国営放送などで活躍していることも分かりました。

その“快進撃”ともいうべき成果の源，そしてユニークな数学教育を取材したく，同校の日本におけるエージェントのひとつである啓林館（本社大阪市）に連絡したところ，今年３月末に千葉で，来日された同校のナランバヤル校長先生と会談することができました。

席上，本校の沿革，そして本校で取り組んでいる数学科の取り組みをお話し、両校数学科に友好の灯を点したい旨をお伝えしたところ，大変に興味をお持ちいただき「川崎さん，“善は急げ”というではありませんか（同校長先生は京都大学大学院に学ばれ，日本語が堪能でいらっしゃいます）．モンゴルの学校は６月には夏休みに入ってしまいますから，早々にウランバートルにいらっしゃって，新モンゴルの数学科の先生方に今日の話をしてください」とのお話を頂き，今回のモンゴル訪問が実現いたしました。

ナランバヤル先生と会談後，同校の日本留学生の合宿所を訪ね，彼彼女らと意気投合すると同時に，皆さんの“青雲の志”に感銘を受けました。

§２．今日のウランバートル

５月 19 日，成田空港から（この時期は）週３便出ているウランバートルへの直行便に乗り，ウランバートル・チンギスハーン国際空港へ到着しました。

モンゴルといえば，“遊牧民”，“馬頭琴”，“相撲”といったイメージの私でした。殊に，前の２つは小学校低学年で読んだ「スーホーの白い馬」の影響大です。

さりながら，山々に囲まれた盆地にあるウランバートルは，今日，紛れもない大都会でありました。

現在，人口 289 万のモンゴル国にあって，ここウランバートルは実に総人口の 46 %にあたる 132 万余の人々が暮らしています。1992 年に社会主義を完全に放棄した時点での同市の人口は約半分であったといいますからいかに急速な発展があったかがうかがい知れます。そのために、インフラの整備が追い付かず，今やウランバートル随一の名物は自動車渋滞といわれています。また，外資の積極的な参加によって建設ラッシュ（ピークは３～４年前とのこと）真っただ中でもあります。

一方で，ソ連邦との友邦関係のあった頃に建てられたアパートがそこかしこに残り，同国で使用されているキリル文字の数々と相俟って，市内はあたかも旧ソ連邦内の中央アジア，或いは東欧の街並みの雰囲気が感じられ，趣深いものがあります。

また，この時期のウランバートルの日没は実に 21 時（日本時間 22 時）であり，それもあってか時間がゆっくり流れている気がしてなりませんでした。

§３．新モンゴル学園＆オロンログ学園　訪問

翌日，新モンゴル高校に向かい，ナランバヤル校長先生との再会を喜びました。

（ナランバヤル校長先生（右）と）

若干の実務協議のあと，ナランバヤル校長先生のご案内で，数学五輪で目覚ましい活躍を見せ，「モンゴルの数学といえばここ」と言われるオロンログ学園を表敬訪問しました。

同学園のバヤスガラン理事長先生は，20 代にして留学先のロシアのウラル工科大学（エリツィン元大統領が卒業）で学位をとった秀才で，まさに“勇将の下に弱卒なし”を感じた次第です。

モンゴル国の数学の父ミャンガット（今日，“カタラン数”と呼ばれている数の第一発見者）のことや，同理事長先生が私財を投じて，採算を度外視して二十数年にわたりモンゴル国唯一の数学雑誌を刊行（季刊）されていることをお話し下さいました。

いわば，数学に於いて，自らが花と咲くよりも花を咲かせる土となられた同先生は，現代モンゴル数学の父と呼ぶに相応しい方でいらっしゃいます。

（オロンログ学園バヤスガラン理事長先生（左）と）

種々の数学について談論風発し，新モンゴル高校とともに本学との友好関係樹立を希望され、友情のしるしに、と記念文書を寄贈してくださいました（写真）。

数学五輪に興味のある本学の生徒とオロンログ学園の俊才たちとが切磋琢磨する日が来るかもしれません。

§４．数学講演会

その後，新モンゴル学園に戻り，理系高校生のうち約 80 人を対象に，バビロニアの昔から 19 世紀のエルミートに至る「代数方程式の歴史」について記念講演をしました。

また，日本から伺いましたので，江戸時代に日本で独自に発展した数学である“和算”についての紹介もしました。

「4000 年前にすでにバビロニアで２次方程式が解かれていたことに驚愕した」，「数学の天才たちのドラマを興味深く聞いた」などの感想が寄せられました。

パスツールの言葉に倣い，「教育者に故郷はある。されど，数学教育に国境はない」と締めくくり，共鳴を頂きました。

講演中，和算の紹介における鶴亀算のクイズ正解者にプレゼントしたソロバンが好評でした。また，算額についても好評で，新モンゴル高校の構内でも掲げてみたら面白いな，との感想が寄せられたことを付記します。

§5. 新モンゴル中高の日本語教育

同学園では11年生や12年生に相当に日本語が通じます。これも中学校1年生（モンゴル国での6年生）から第2外国語として日本語を学んでいる成果でありましょう。

同学園の図書館で会った中学生の女生徒は日本の「小学館」の学習雑誌の記事を楽しんでいました。

驚いたのは，廊下での注意書きも日本語が併記されているのです。

また，中学1年生のクラスの壁には日本語で作成されたクラスの「壁新聞」が掲げられていました。

〈次号に続く〉

～～～生徒会が実施した国際支援プロジェクトを生徒会の中山君が紹介します～～

国際支援プロジェクト

Project Outline

国際支援プロジェクトとは、学習物資（鉛筆､消しゴム、ノート等）を収集し、発展途上国に寄贈するプロジェクトです。運営は、都立国立高等学校　浅野高等学校　晃華学園高等学校　都立翔陽高等学校　城北高等学校（代表校）の五校です。

私たち海城学園はこのプロジェクトに参加することになりました。また、発送などを担当していただくのはJOICEPという公益財団法人です。

ABOUT JOICEP

JOICEPは、途上国の妊産婦と女性の命と健康を守るために活動している日本生まれの国際協力NGOです。戦後の日本が実践してきた家族計画・母子保健の分野での経験やノウハウを途上国に移転してほしいという国際的な要望を受け、1968年に設立されました。国連、国際機関、現地NGOや地域住民と連携し、アジアやアフリカで、保健分野の人材養成、物資支援、プロジェクトを通して生活向上等の支援を行っています。2011年3月の東日本大震災以降は、被災地の妊産婦・女性支援も実施しています。このプロジェクトでは、JOICEPの学用品支援の窓口を通して学習物資の国際支援・国際輸送をします。

Objective

発展途上国の基礎教育の支援を通して、現在教育を受けられていない人々の健康や保健人に関わる知識の習得、情報取得の推進をする。

保健機関での患者のカルテとしての活用など支援物資による発展途上国の医療・福祉の推進を図る。

ということが目的です。

Action

校内で学習支援物資を収集し、晃華学園高等学校に送りました。集めた物は

・鉛筆　色鉛筆（削っていないもの）　ボールペン　ノート

・消しゴム　鉛筆削り（手動で削れるもの）

また、このほかに発送料の確保のために運営側の意向で書き損じハガキの募集も行いました。

Result

生徒会は以下のような段ボールを各学年のフロアにおいたりHRなどを利用した積極的な広報

活動を行い、その結果以下のように集まりました。

・鉛筆　322本　色鉛筆　179本　ボールペン　44本　ノート　20冊

・消しゴム　45個　鉛筆削り　3個

また、このほかに募集していなかったものの皆さんの好意で集まった物もあります。使えると考えて入れてくれた皆様、ありがとうございます。これらの物は私たちが使えると判断した物は晃華学園に送らせていただきました。その他の物は、

・マーカー　28本　クレヨン　2パック

です。これら集まった物は生徒会が責任を持って発送させていただきました。

Future

今後の生徒会の方針としては海城生が全体として参加できる社会貢献活動がほかにもできないか積極的に考えていきます。

今回の国際支援プロジェクトのように皆さんに協力していただけるようなボランティア活動は機会があればまた参加しようと思っております。

これだけの文房具が集まったのは皆さんのおかげです。ありがとうございました。

以下は今回の企画を推進した生徒会メンバーの感想です。

○何かしら支援・募金・寄付等をやりたいと思っていたので､今回参加できたのは良かったです。少しでも多くの世界の人々の役に立てたらいいと思っています。（生徒会　糸久）

○今回初めて自らボランティアというのを行いました。自分たちで広報ポスターや回収用段ボールを作って、その結果多くの支援物資が届いたことに驚きと同時に達成感を感じました。今後もこのような活動に積極的に参加できればと思っております。（生徒会　中山）

○支援物資が集まるかどうか不安だったので、初日に鉛筆が 1 ダース箱ごと入っていたのには感動しました(笑)結果として、ダンボール一箱分の文房具を集めることが出来たので、成功だったと考えていいのではと思っています。思っていたよりも生徒に好意的に参加してもらえたので、アルバイトが出来ない僕らでも気軽に参加できるようなボランティア活動が他にもないか、模索して行きたいと思います。（生徒会長　森）

（中学１年生からの寄贈が一番多かったです。こんな風に包装してくれた人もいました。）

ホームステイ募集その後

前号でお願いしたホームステイ募集にご協力くださり、ありがとうございました。急なお願いにもかかわらず、１４のご家庭からお申し出がありました。

ホームステイ先の選定は主催業者のＩＳＡに任せてあります。今後もこのような機会があれば、是非ご協力ください。